

日本小児感染症学会若手会員研修会第 1 回水戸偕楽園セミナー

レクチャー 4 B 型肝炎ワクチンを全国民に接種すべきか？/移植患児におけるウイルス感染症

工 藤 豊一郎*

B 型肝炎ワクチンは図 1, 2 に示すように、世界の大部分の国ですべての小児に接種が行われている。これによって世界の多くの国で B 型肝炎が劇的に減少している。

ここ 20 年間で接種可能なワクチンが増加し、わが国の予防接種の実施は世界の国々に比べて大きく遅れたことが各方面で指摘されている。しかし B 型肝炎ワクチンの必要性に関する指摘は多くはない。

そこで昨シーズン流行した新型インフルエンザを例にとり、すべての国民に予防接種を行おうとした政策を思い起こしながら、B 型肝炎と新型イ

ンフルエンザが、それぞれ健康に与える影響について疫学的数値を用いて頭の体操を試みた。

現在のわが国における B 型肝炎対策は、母子感染を解決しつつあるものの水平感染に対して無力であり、父子感染を含む家族内感染や、STD としての B 型急性肝炎が問題にあげられている。乳幼児期に感染すればキャリア化して次の感染源となるとともに、肝細胞癌患者の予備軍となることがこの感染の特徴である。

B 型肝炎が比較的少ない米国やイタリアなどの先進国が、1990 年代にやはり水平感染を制御できず、すべての国民に免疫を付与するユニバーサル

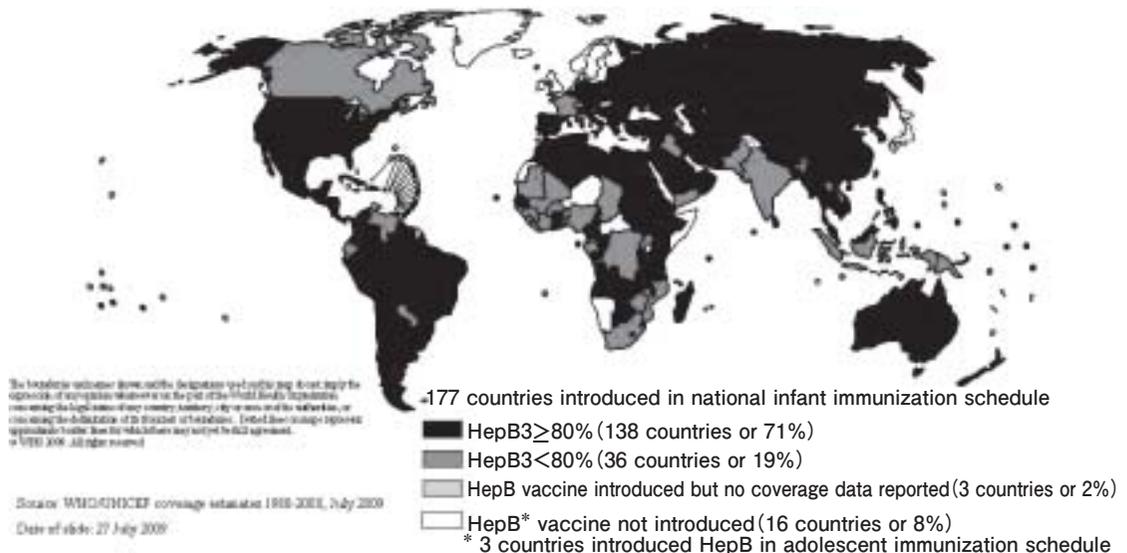
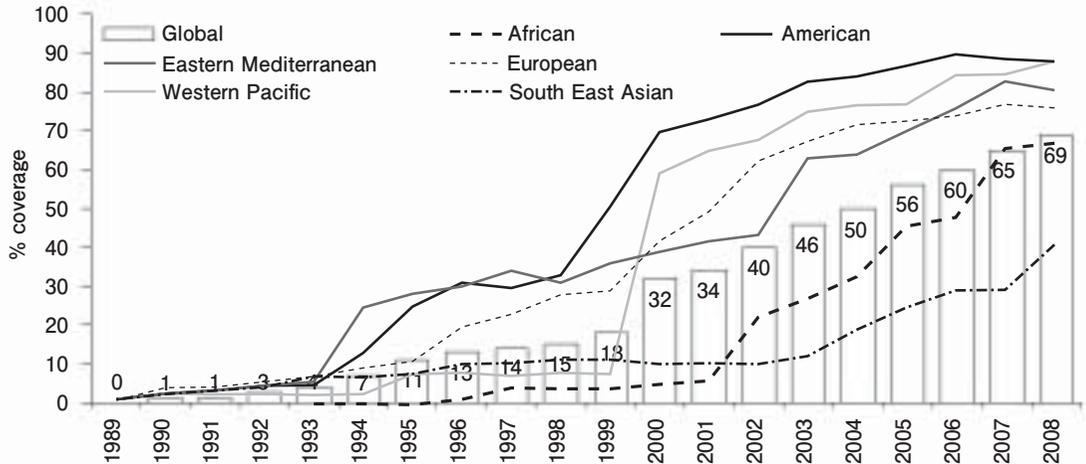


図 1 Countries having introduced HepB vaccine and infant HepB3 coverage, 2008 (www.who.int より引用)

* 筑波大学臨床医学系小児科



(Source: WHO/UNICEF coverage estimates 1980-2008, July 2009, 193 WHO Member States. Date of slide: 29 July 2009)

図 2 Global Immunization 1989~2008, 3rd dose of Hepatitis B coverage in infants global coverage at 69% in 2008 (www.who.int より引用)

接種に踏み切っていったことを知ってもらいたいと思う。対象としては思春期の子どもたちと全新生児を選び、できるだけ速やかに全国民に免疫を付与しようとした。

わが国で B 型肝炎ワクチンをどのように用いるべきか、若手の先生方に考察していただければ幸甚である。

併せて若手の先生方へのメッセージとして、臓器移植は多彩な感染症をレシピエントに持ち込むことが避けられないこと、そこでは新しいウイルスが発見される余地が残っていること、既知の感染としてはサイトメガロウイルス (CMV) 感染症や Epstein-Barr ウイルス (EBV) 感染症があることを概説した。

* * *